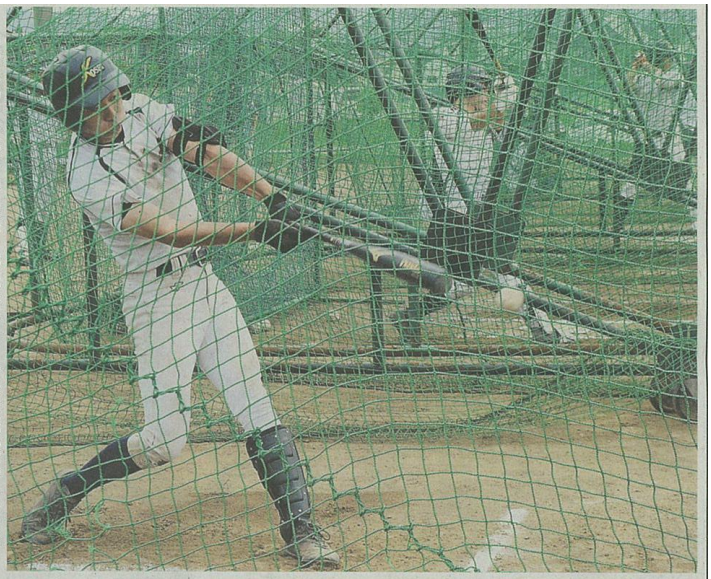
２０１９年（令和元年）７月２３日　火曜日

東奥日報　１５面　掲載



【写真右】打撃練習に汗を流す八学光星ナイン＝青森中央学院大グラウンド

強打 火吹くか　光星

「一致団結して勝つ」

八学光星は青森市の青森中央学院大学グラウンドで、午前9時から3時間ほど最終調整。ほどよい緊張感の中、ナインは気合のこもった掛け声を響かせながら練習に汗を流した。

準決勝まで5試合で計60得点、打率4割3分と、「打の光星」は今年も健在だ。この日は、走塁練習やシートノック、打撃フォームの確認などに時間を割いた。仲井監督やコーチ陣も「足を止めるな」「声出していけ」と決戦に臨むナインを鼓舞していた。

主将武岡は「（はるか夢球場の）人工芝にも慣れてきた。気負うことなく、一致団結して勝ちにいきたい」と闘志を燃やした。

（大久保拓地）

【八学光星】

	打	安	点	振	球	率
⑥武岡③	12	7	5	1	1	.583
⑤島袋③	14	6	1	1	0	.429
③近藤③	19	11	6	0	0	.579
⑨原③	14	7	9	3	0	.500
⑦江藤③	13	7	3	3	0	.538
④波山③	15	3	4	5	1	.200
⑧遠藤②③	9	4	3	2	0	.500
②田村③	9	1	3	3	0	.111
海江田③	3	0	0	1	0	.000
大上③	2	1	1	0	0	1.000
山藤③	2	0	0	0	0	1.000
林③	0	0	0	0	0	.000
野③	0	0	0	0	0	.000
残併失盗犠	143	1	33	128	55	5
	581	54	0	.430		

※守備、打順は準決勝の先発

〈投手成績〉

	試合	投球数	打者	被安打	奪三振	与四球	失点
山田③	3	71⅓	317	93	0	2	0
横山海③	3	113⅓	436	105	0	0	0
横山大②	1	11	43	10	2	0	0
後藤③	1	11	43	10	2	0	0
下山③	2	52⅔	235	55	1	2	2

第101回 全国高校野球 青森大会

第101回全国高校野球選手権青森大会は最終日の23日、決勝を行う。八学光星―聖愛の決勝カードは2年連続3回目。令和初の甲子園への切符をつかむため、試合前日の22日、両校はそれぞれ練習に打ち込んだ。今大会60得点の強打を誇る八学光星は、6年連続の決勝進出となる。今年も、自慢の攻撃力で全国の舞台に駒を進められるか。一方、聖愛は今大会20盗塁と機動力を生かして得点を重ねてきた。大技小技で相手を揺さぶり、2度目の甲子園をつかみ取る構え。決勝は弘前市のはるか夢球場で午後1時にプレーボール。青森地方気象台によると、23日の天気は曇り一時雨の予報で、同市の最高気温は31度と見込まれている。

（目時壮大、大久保拓地）

きょう決勝

（左のチームが一塁側）
◇はるか夢▷決勝
八学光星―聖　　愛（13・0）

八学光星、聖愛の今大会成績

	試合数	得点	失点	打数	安打	二塁打	三塁打	本塁打	打率	犠打	盗塁	失策
八学光星	5	60	5	128	55	18	1	11	.430	14	3	1
聖　愛	4	45	17	122	42	8	8	5	.344	10	20	2

持てる力を全て発揮

▷八学光星・仲井宗基監督　春の大会で初戦敗退してから、チームは厳しい練習を乗り越えてきた。秋と春の東北大会優勝校同士の対決となり、レベルの高い試合になる。持てる力を全て発揮し、3季連続の甲子園出場を果たしたい。

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです